

参考資料2 土木技術者・土木学会に対する外部ヒアリング結果要旨

参考資料2 土木技術者・土木学会に対する外部ヒアリング結果要旨

1. はじめに

土木学会企画委員会では、JSCE2010の策定に際し、より多くの方々の幅広い意見を聴取する必要があることから、2007年2月から12月にかけて、マスコミ、NPO、教育関係、経済団体および学協会を対象に外部ヒアリングを実施した。

また、2007年9月に実施された平成19年度全国大会では、『「土木学会」はどう見られているか？－「JSCE2010」策定に向けて、外部の皆様から土木学会への期待をお聞きする－』と題して、研究討論会を開催した。

ここでは、「土木技術者・土木学会に対する外部ヒアリング結果要旨」について報告する。

2. 外部ヒアリング概要

(1) 対象者および対象団体

表1に、外部ヒアリングの対象者、対象団体および研究討論会における話題提供者を示す。

表1 対象者および対象団体（※敬称略、所属はヒアリング時のもの）

区分	対象者	所属	実施日
マスコミ	山岡淳一郎	ノンフィクション作家	2007/3/20
	森野美德	都市ジャーナリスト	2007/7/24
NPO	佐々木久雄	NPO 法人 環境生態工学研究所 理事	2007/4/9
	市川智子	国際協力専門家支援ネットワークフォーラム「そしえてnet」／A&Mコンサルタント	2007/5/14
	小島健一	「社会科見学に行こう！」代表／写真家	2007/12/6
教育関係	北俊夫	岐阜大学教育学部 教授	2007/11/26
	新保元康	札幌市立新光小学校 教頭	2007/11/26
経済団体	中国経済連合会（平岡企画部長他2名）		2007/7/9
学協会	（社）日本建築学会		2007/2/19
	（社）日本機械学会		2007/2/26
	（社）地盤工学会		2007/3/13、7/19
	（社）日本土木工業協会		2007/3/27
	（社）日本コンクリート工学協会		2007/3/28
研究討論会 話題提供者	堀江和義	中国新聞社 論説委員会 論説主幹	2007/9/12
	佐々木久雄	NPO 法人 環境生態工学研究所 理事	2007/9/12
	恒吉正浩	味の素株式会社 食品カンパニー 物流企画部 企画グループ長	2007/9/12

(2) ヒアリング項目

外部ヒアリングおよび研究討論会では、土木学会、土木技術者が果たすべき役割・期待を中心にヒアリングを実施した。**表2**にヒアリング項目を示す。

表2 ヒアリング項目

区分	ヒアリング項目
マスコミ、NPO、教育関係、経済団体	<ul style="list-style-type: none"> ・土木学会、土木技術者が果たすべき役割・期待 ・土木学会運営 PDCA マネジメントシステム（自己評価）に対する意見
学協会	<ul style="list-style-type: none"> ・学協会の課題（会員減少、若手技術者、財政、交流・連携、組織、公益法人改革等） ・社会とのコミュニケーション ・自己評価・外部評価の実施状況 ・土木学会への期待、要望 ・土木学会運営 PDCA マネジメントシステム（自己評価）に対する意見
研究討論会における話題提供者	<ul style="list-style-type: none"> ・土木学会、土木技術者に対するイメージ ・土木学会、土木技術者が果たすべき役割・期待 ・国民、一般社会とのコミュニケーション

3. 外部ヒアリングでの主な意見

(1) マスコミ、NPO、教育関係、経済団体

表3に、マスコミ、NPO、教育関係、経済団体に実施した外部ヒアリングにおける主な意見を示す（文責は企画委員会）。

表3 マスコミ、NPO、教育関係、経済団体の主な意見（※敬称略、所属はヒアリング時のもの）

ヒアリング対象者	主な意見
山岡淳一郎 (ノンフィクション作家)	<ul style="list-style-type: none"> ・10年後を見通したキャッチフレーズ（後藤新平のように）がほしい。 ・土木施設は日頃その存在を意識していない（見えない）、「見える化」が必要。 ・地球規模の環境問題（地球温暖化、気候変動等）について、積極的に取り組んでほしい。 ・一般市民、特に子供達に対して社会基盤・環境問題をわかりやすく発信してほしい。 ・土木・建築・医学は「公共」であることを子供のころから共有することが重要。小学生への出前講座、建設現場見学会は有効な手段。
森野美德 (都市ジャーナリスト)	<ul style="list-style-type: none"> ・学会は学問体系が細分化されすぎている。 ・役所や業界団体が何かを言っても社会は動かない。学会には、社会に向かって情報発信する機能が必要。 ・マスコミへの情報発信方法としては、組織よりも個人（会員）ベースでいろいろなチャンネルをつくること、シンパをつくるのがよい。 ・災害時のテレビの報道番組やニュース番組では、情緒的解説が多く科学的な解説が不足している。学会がコメンテーターを決めて、マスコミ出演することが必要。

<p>佐々木久雄 (NPO 法人環境生態工学研究所理事)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「透明性」がほしい。 ・「土木」＝「役所」のイメージがある。土木学会も「役所」からもう少し距離を置いてほしい。 ・「環境教育」のように「土木教育」を子供のうちからできないか。 ・NPOをもっと利用してほしい。 ・環境を壊してしまったのは土木であり、それを修復できるのも土木である。最終目的は公益である。 ・100年後に対するKEYWORDは「ゆっくり、ローテク」。 ・学会は、成功主義であり、マイナスの成果や失敗の発表をしながらない。次の世代に経験を繋げ、また、同じことを繰り返さないために、学会は失敗したことを取り上げてほしい。
<p>市川智子 (国際協力専門家支援ネットワーク「そしえてnet」/A&Mコンサルタント)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際協力分野の人材が不足、特に土木学会のシニアの方には、シニアアドバイザーとして参加いただきたい。 ・土木学会が開催するセミナーやシンポジウムにおいて、実務にあったコンサルタント業務の計画管理等の内容(土木分野に特化した)について企画できないか。 ・「そしえて net」は、国際協力人材を支援するために多様な分野で育成プログラム(技術セミナーなど)を展開しているので、この情報を土木学会の「情報配信ネットワーク」に配信できないか。
<p>小島健一 (「社会科見学に行こう!」代表/写真家)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が撮る写真では、土木のカッコよさを伝えたい。 ・一般の人からの土木のイメージは、「無関心」がほとんどである。 ・会費のいらないファン会員やメルマガ会員(一般向けのメールマガジンを発信)を作ってはどうか。 ・日本中に土木ファンを増やしていくことが大事である。見せやすい現場からオープンにしていくことが必要。また、出来てからではなく出来るまでを公開して欲しい。見学会では、エピソードを語って欲しい。 ・土木学会のホームページは分かりづらく、一般に向けて情報を発信しているように見えない。
<p>北俊夫 (岐阜大学教育学部教授)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や教師には、学習指導要領の趣旨に沿ってサポートすることが大切である。 ・小学校には、文科系の教師が多いので、学会から指導者を派遣する仕組みがつけられるとよい。 ・先生を対象とした研修会を開いて欲しい。その際には、首都圏だけでなく、全国の主な地域ごとに開催してもらいたい。 ・土木教育に取り組む学校を発掘し、サポートする体制が必要である。指定校を設定し、個別にサポートする。指定校を軸にして広げていく。
<p>新保元康 (札幌市立新光小学校教頭)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校において、社会資本整備(公共事業)は、①顕在的カリキュラム(表)[学習指導要領]、②隠れたカリキュラム(裏)[教師の思い]として教えられている。 ・現在の小学校では、「公共事業に悪いイメージを持った教師」、「公共事業の意味をよく知らない教師」、「公共事業によって豊かになった歴史を知らない教師」が教えているのが現状である。 ・一人一人の「公」意識を高めていく必要がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・教室では、すべて取り上げることができない。現場の先生は、学習指導要領の範囲でやるしかない。学習指導要領に社会資本整備の意味が記載されなければ、教室で学習される可能性はほぼゼロ。学習指導要領で扱われることが重要である。
中国経済連合会 (平岡企画部長他 2名)	<ul style="list-style-type: none"> ・「学会」は、身近ではない、「重たい」、若者を押し込める組織といったイメージ。 ・土木の扱う領域は他分野に比べ広いので、全体の政策評価で活躍できるのではないか。 ・国際貢献では、留学生へのフォローが重要。特に、アジアの留学生を育てていくことが必要である。 ・社会的認知度を上げるためには「広告塔」が必要。

(2) 各学協会

表 4 に各学協会に実施した外部ヒアリングの主な意見を示す（文責は企画委員会）。

表 4 各学協会の主な意見

ヒアリング対象団体	主な意見
(社) 日本建築学会	<ul style="list-style-type: none"> ・土木学会は工学全体を見る立場であるので、是非、リードオフマンとなっていただきたい。土木分野の方は、志が高く、国家を体系的に考えることが叩き込まれている。基幹学会として頑張ってください。 ・環境、防災、倫理問題等、共通のテーマについて、お互い発信していきたい。
(社) 日本機械学会	<ul style="list-style-type: none"> ・学術団体が認定する資格制度の定着、社会に対する PR の継続。 ・サステイナブルソサエティというキーワードを考えていくと、機械分野だけではできない。エネルギーを軸とした社会システムをどのように考えていくかについては、機械分野、材料分野等の個々の分野では無理。社会資本（建設・土木）分野との連携は必須である。
(社) 地盤工学会	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと他学協会と連携した方がよい。土木学会と建築学会のストラクチャー部門（構造系）が連携することが必要。また、他学協会とは、倫理・コンプライアンス、男女共同参画の分野で連携していくことが重要。 ・連携して、全国大会を同時期に開催することを検討できないか。また、他学協会と連携して賞を運営できないか。 ・今後の日本の建設産業のことについて検討していただきたい。日本のマーケットは縮小していくが、世界のマーケットはある。輸入産業としてしまったら、終わりである。建設業を輸出産業にする。夢がないと若者は集まらない。土木界・土木技術者には、若者に対するメッセージ性がない。 ・土木学会の運営については、適正な規模とする。効率性を高めることが重要である。公益法人改革に絡めて、理事の人数を減らしていくべきである。生産性の高い体制とするべきである。今の体制では、次世

	<p>代のことを、まったく考えていない。理事には、権限と責任を持たせるべきである。</p>
(社) 日本土木工業協会	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動については、土木学会、土工協が連携して実施していくことが望まれる。 ・学会らしい活動として評価しているのは、防災教育 DVD の制作である。今後も、このような活動を PR していくべきである。 ・現場と出前講座をセットで行いたいと思っている。学会とコラボレーションしていきたい。 ・土木図書館の映像関係資料が一般市民に利用されていない。図書館も一般開放すべき。
(社) 日本コンクリート工学会	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化問題については、特に、技術の伝承について不安がある。若手技術者には、失敗の経験がないので、仮想体験が必要。どこまでやったら、失敗するかを学ぶ必要がある。 ・アジアへの貢献については、相手側の文化を尊重し、思いやりを持って行うことが重要である。また、日本のゼネコンが持つ、総合技術力は、まねできない。 ・会員（特に企業の技術者）の表彰・評価の拡大が必要。

(3) 研究討論会

表 5 に研究討論会における話題提供者の主な意見を示す（文責は企画委員会）。

表 5 研究討論会の主な意見（※敬称略、所属はヒアリング時のもの）

話題提供者	主な意見
堀江和義 （中国新聞社論説委員会論説主幹）	<ul style="list-style-type: none"> ・地方メディアは小泉改革を批判しており、抵抗勢力。 ・インフラの重要性は認識。 ・土木へのイメージは悪い。 ・土木技術者・理系に対するあこがれとコンプレックスがある。 ・技術者は嘘をつかないと思っていたが、近年、データ捏造等のニュースを聞くと残念。 ・世間を斟酌して対応してほしい、「技術バカ」であってほしい。
佐々木久雄 （NPO 法人環境生態工学研究所理事）	<ul style="list-style-type: none"> ・土木は権力サイドに近いイメージ。 ・ムダな公共事業と言わせないために何ができるか。 ・地方は公共事業に頼らざるを得ない。 ・土木は不可逆的な面が多いので、あまり急ぎすぎない方がよい。 ・土木はよくやっている。 ・土木教育が足りない、シビルエンジニアリングが市民に伝わっていない。 ・土木学会として PR すべきことが多くある、失敗事例も発表すべき。 ・合意形成は NPO を活用してほしい → 底辺を広げることになる。 ・ハイテクからローテクへ、時間をかけることが必要では。
恒吉正浩 （味の素株式会社食品）	<ul style="list-style-type: none"> ・土木学会を知らなかった、土木と建築の違いがわからなかった。 ・存在を知らしめることも重要。

カンパニー物流企画部企画グループ長)	<ul style="list-style-type: none">・土木はすごいという実感がある、何とかこれを伝えられないか。・食品業界では、女性からどうみられているかが重要、社会資本を扱う土木も究極のユーザーは国民、女性であるので同じではないか。・現在、JR 貨物の環境委員会の委員をしている。外部の意見を聞くことが重要では、土木に対して耳のイタイ意見を聞く場も必要ではないか、その意味では、委員会の委員に土木学会員以外の外部の方を委員にすべきではないか。
--------------------	--

以 上